

7 一人ひとりの理解の仕方

一人ひとりと向き合う

授業中、教員は教室内の多数の生徒と向き合っていますが、生徒は多くの場合、一人の教員と向き合っています。ですから、教員は一人ひとりの生徒と向き合っているという意識を持つことが大切です。生徒一人ひとりと向き合い、個々の生徒を理解することは、「生徒の実態に応じた授業」をつくることにつながります。

相手の立場に立って考える

授業には情報を伝え、理解を得る場面があります。

必要な情報を正しく伝えられたのか、伝えたいことを相手が理解できたのかを振り返ったり、相手の立場に立って考えたりすることが大切です。 → 1章-3

☆生徒の見取りも 「チーム学校」で

経験を重ねた教員であっても、自分だけで生徒の全ての面を見取れるわけではありません。同僚と協働して一人ひとりの生徒を見取り、支えているのです。

「チーム学校」の考え方がここで生きてきます。一人で抱え込まずに、周囲と情報を共有しましょう。

一人ひとりの学習観・学習スタイル

一人ひとりの「学習観」や「学習スタイル」は、高等学校に入学するまでの9年間の学習経験によって大きく異なります。

教員が生徒たちの学習観や学習スタイルを知っておくことはもちろんですが、生徒自身も自らの学習観や学習スタイルの傾向を知ることによって自分に合った学び方を見つけることができます。

生徒が自分の学び方についてメタ認知し、試行錯誤することができ、学習活動に取り入れましょう。

個別支援が 必要な生徒 への対応を 考えよう

一人ひとりの正しい理解が大切！

認知の偏りや集中の難しさ、社会性の育ちにくさなど、困難な局面だけに注目し、できるようにと励ますだけでは、うまくいかないことがあります。

一人ひとりの生活や文化的背景、経験やつまづきを、対話等を通して理解し、持っている力を生かそうという生徒の意欲を高めさせることができるよう、継続的で一貫した支援をしていくことが必要です。

学習観の違い

例えば、「やり方を決めてから勉強するのが良い」と考える生徒もいれば、「試してみてその反省を後の学習にいかす方が効果的だ」と考える生徒もいます。「意味よりも暗記が重要だ」という生徒もいれば、「多くの問題を解くことが大切だ」と考えたり、「とにかく正答にたどり着ければ良い」と考えたりする生徒もいます。

生徒の持っている学習観と授業のねらいが合わないと、学習が成り立たないこともあります。その際は、生徒の学習観を認めた上で、望ましい学習観を示すと良いでしょう。

学習スタイルの違い

見え方や聞こえ方、感じ方、記憶や理解の仕方等の認知特性によっても、生徒の学習スタイルは異なります。個々の特性に合った手立てを柔軟に取り入れましょう。

- 見て理解することが得意な生徒
…絵や写真、カードや映像、板書など視覚支援を活用する。
- 手順が明確でない活動を正確に行うことが難しい生徒
…板書やカードなどで活動の順序を示し、見通しを持たせる。
- 二つのことを同時にするのが苦手な生徒
…指示や提示は一つずつ行う。
- じっとしていることが苦手な生徒
…音読や書字など体の一部分を動かす活動を取り入れる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

生徒それぞれに合わせた学びの場を設定し、その学びを他者と共有させることで、更なる気付きや理解を促すことができます。デジタル学習基盤を適切に用いて、多様な学びを実現させましょう。

○個別最適な学び

「指導の個別化」…個々の生徒の特性や学習進度等の状況に応じた指導方法の工夫や教材の提供等

「学習の個性化」…生徒の興味・関心等を生かした探究的な学習等の充実

○協働的な学び…多様な他者との協働を通して、資質・能力を育む活動

☆学習スタイルとは

学習スタイルとは、生徒が学習に取り組むときに好んで用いる方法のことです。

巻末の参考資料―Iに「教室中での『困り（特性）』のチェックリスト」、「学びに関する『困り（特性）』のチェックリスト」がありますので、個々の生徒の把握の際の参考にしてください。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の参考資料

- 『高等学校学習指導要領解説 総則編』平成30年7月 →学習指導要領のダウンロードは P122へ
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」令和3年1月 中央教育審議会
- 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」令和3年3月 文部科学省初等中等教育局教育課程課



「『令和の日本型～』



「学習指導要領の趣旨の～」